「豊かな心」をはぐくむ読書活動

ー実践事例に学ぶー



栃木県総合教育センター 平成16年11月

目 次

はじめに

	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	本を通した心のふれあい活動	j 2
1	就学前の子どもと本とのかかわり	- 本と出会うきっかけづくり - ・・・・・・ 2
2	全校一斉読書活動	- 読書に夢中になるひととき - ・・・・・・ 5
3	読み聞かせ	- 本を通した人とのふれあい - ・・・・・・ 8
4	親子読書	- 親子のふれあいを目指して - ・・・・・・ 14
5	本の紹介活動	- 感動の共有を通して - ・・・・・・・・ 15
6	様々な読書推進活動	- 本好きな子どもの育成を目指して - ・・・ 17
	本に親しませるための環境づ	ີ່ (ປ) · · · · · · · · 22
1	図書館設置の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
2	図書の配架等の工夫・・・・・・・	22
3	学級文庫の工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
4	公立図書館との連携・・・・・・	
5	司書の配置等を工夫した取組	25
おれ	oりに ······	26

はじめに

子どもは、読書活動によって、智恵や思索の源となる言葉を学び、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていきます。また、心に深く残る読書の経験は、心の栄養となり、豊かな情緒や繊細な感性をはぐくんでいきます。

しかしながら、テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及 や子どもの生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子ど もの「読書離れ」が指摘されています。

このような中、平成13年12月に、読書のもつ計り知れない価値を認識して、子どもの読書活動を国を挙げて支援するため「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されました。また、平成14年8月には、この法律の規定に基づき、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、平成14年から18年までの5年間の施策の基本的方向と具体的な方策が示されました。

本県においては、平成11年度から、「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動を推進する中で「『本の時間』をつくろう」を実践指標として定め、家庭、地域、学校において読み聞かせや読書の時間を設けて大人が子どもとともに本に親しむことや、読書を通じて子どもの豊かな心や創造性をはぐくむことを期待して、啓発・広報活動を展開しています。

こうした国や本県の動きを踏まえ、平成16年2月には、県内のすべての子どもたちが、 あらゆる機会や場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭、地域、学 校を通じた社会全体で取り組むための環境作りを目指した「栃木県子どもの読書活動推進 計画」が策定されました。

本調査は、その施策の一つとして、幼児や児童生徒の読書活動の一層の推進を図るため、読書指導に関する先進的な取組について、特に「心の教育」に視点を当てて紹介したものです。本資料が、家庭、地域、学校が一体となった「子どもの読書活動推進」の一助として活用されることを期待しています。

おわりに、本冊子の作成にあたって、調査に御協力をいただいた保育園、幼稚園、小・中学校及びその担当の方々、そして関係諸機関の方々に心から感謝の意を表する次第です。

平成 16年 11月

栃木県総合教育センター所長

調査の概要

1 調査の目的

保育園(所)、幼稚園、小・中学校、地域、家庭等で行われている読書活動の効果的な 実践事例について聴き取り調査を行い、それぞれの学校や地域、家庭に合った取組を推進 するための事例集を作成し、「心の教育」としての読書活動に資する。

2 調査方法

保育園(所)、幼稚園、小・中学校への訪問及び電話による聴き取り調査

3 調査時期

平成16年6月~8月

4 調査協力保育園(所)幼稚園、学校

	調査協力保育園(所)、	幼稚園、学校名
保幼 育稚 園園	・小山市立城東保育所 ・やしお幼稚園(上三川町)	・つくし保育園(宇都宮市) ・みどり幼稚園(宇都宮市)
小学校	・上河内町立西小学校・今市市立今市小学校・真岡市立長田小学校・真岡市立西田井小学校・石橋町立石橋小学校・氏家町立熟田小学校・南那須町立江川小学校・足利市立山辺小学校	・宇都宮市立富士見小学校・藤原町立下原小学校・真岡市立中村東小学校・茂木町立中川小学校・小山市立網戸小学校・黒磯市立東原小学校・田沼町立吉水小学校
中学校	・宇都宮市立清原中学校 ・藤原町立川治中学校 ・矢板市立矢板中学校	・南河内町立南河内中学校 ・市貝町立市貝中学校 ・小川町立小川中学校

本を通した心のふれあい活動

1 就学前の子どもと本とのかかわり - 本と出会うきっかけづくり -

成長・発達の著しい乳幼児期において、子どもたちは、遊びや生活の一部として本に親しんでいます。本との出会いは、一人一人の興味や関心によって様々な楽しみを 展開させます。

就学前の子どもたちにとっては、読み聞かせや素語りなどが読書活動の中心となります。生活や遊びを通して総合的に学ぶこの時期に、子どもたちは保育者や友だちとページをめくる中で、どんな経験を重ねているのでしょうか。いくつかの園での活動と子どもたちの姿を追ってみました。

保育所には生後8週からの子どもたちが通ってきます。保育士は子どもがお座りできるようになると、機会ある毎に膝の上で絵本を広げています。子どもたちは、5か月ぐらいになると、自分でページをめくったり、絵に見入るようになったりと関心を示してきます。

0~1歳の子どもにとって、絵本はおもちゃの一つです。触ったりかじったり、読んでもらったりする中でお気に入りの1冊が出てきます。

つくし保育園(宇都宮市)では、本を籠に入れて床においています。まだ歩けない子どもたちが、おもちゃ感覚で何気なく自然に本を手にできるようにと配慮した環境です。 自分のお気に入りの本を保育士のところに持ってきた時、それを一緒に広げることで子どもは本の世界に入っていきます。

子どもが食べ物を自分で手づかみで食べる頃になると、絵本の中の食べ物の絵を見て食べる真似をします。保育士は、「おいしいね、一緒に食べよう。」とイメージがふくらむような言葉をかけ、共感したりほめたりしながら、子どもの仕草に喜びます。子どもは自分の言葉や動作に共感してもらえたり、イメージの共有が出来た喜びを味わったりする中で、本を楽しんでいます。この頃の子どもにとって、読み聞かせはスキンシップそのものです。

子どもたちは絵本で見るアリや犬、猫などが、自分の回りにいる生き物と同じだと感じたり、泣く場面を見て心配そうな表情をしたりと、本の中の話と自分の体験をつなげることで世界を広げていきます。

小山市立城東保育所では、所内研修で平成14年度までの7年間、毎年一人一話ずつのお話作りに取り組みました。お話は、保育の場面を題材にしているので、子どもたちは身近な物語として親しんでいます。

1歳過ぎになると、大人との関係の他に、子どもどうしの関係も出来てきます。本を 自分一人だけで見たい時期から、他の子が黙って覗き込むことを認める時期になります。 3歳くらいになると「一緒に見ようね。」という言葉が聞かれるようになります。

ある1歳クラスのことです。何人かの子どもたちが園庭で「ありのあちち」の絵本と 実物のアリに見入っていたことがありました。その時の子どもたちは、きっと、それぞ れ同じ本のお気に入りの場面を 思い起こしていたことと思われ ます。

3歳になると、幼稚園に通う 子どもたちも出てきます。はじ めての集団生活なので、4月当 初には先生の読み聞かせに馴染 めない子もいます。ティームティーチング「を行っている幼稚 園では、一人の先生が読み聞か せをしているとき、もう一人の 先生が子どものそばに座ったり、



保育園での読み聞かせ

言葉かけをしたりして、1対1で読んでいるような雰囲気を作りながらフォローしていきます。7月頃になると、1冊の本をクラスの子どもたちみんなで見るようになります。

年少クラスの子どもたちは、自由遊びの時間や降園前などに、読んでもらいたい本を 先生のところに持ってきます。何人もいるときは自分の順番を待ちながら、友だちどう しで本の絵を見合ったりして楽しんでいます。

やしお幼稚園(上三川町)では、家でお母さんが読むと「『先生と違うよ、おなじようにやって』と言われました。」との声が届いたりしています。子どもたちは、歌遊び、手遊び、言葉がけを織り交ぜながらの読み聞かせや、友だちと一緒というところに、家とは違う楽しみを感じています。

年中クラスになると、先生の読み聞かせを楽しむとともに、子どもたちどうしでの読み聞かせごっこが始まります。文字を読める子が出てきてたどたどしく読んで聞かせたり、文字を読めない子も自分で想像した話を聞かせたりします。自分のお気に入りの本の絵に沿った話を想像したり、友だちが自分の話を聞いてくれたり、友だちの話を聞いたりと、遊びの中で友だちと関わった楽しみ方が多くなってきます。

テレビやゲームなどのキャラクターに興味が出てくるのもこの時期です。読んで欲しいと家から持ってくる本にもキャラクターものが多くなってきます。先生は要望に応えるとともに、いろいろな本を取り入れていきます。行事や生活のいろいろな場面、季節感、子どもの興味などを大切にして本を選んでいます。

年長クラスでは、子どもたち一人一人の絵本への興味の差が大きくなってきます。先生はこの時期、意識して素話を取り入れたりします。子ども一人一人の様子に応答しながら話す先生の口調や表情に、子どもたちは夢中になってきます。ケンカや小さな発見など、子どもたちの生活を題材にすると大喜びです。

長い話を聞く集中力も身に付いてきます。また、「続き」を待てるようになるのもこの頃からです。何日もかけて、1冊の本を読んでもらいます。「昨日はここまで読んだよ。」「あの話、こうなるんじゃないかな。」「ぼくだったらこうするのに。」などと、待っている間にも会話や思いがふくらみます。

¹ ティームティーチング…複数の教師が指導計画の作成,授業の実施,教育評価などに協力してあたること。

また、知識欲も強くなり、図鑑などの本の人気も出てきます。園庭の虫と図鑑を照らし合わせる姿が多く見られるようになります。リーダー的な子からクラスの他の子へ、年上の子から年下の子へと友達どうしで本を媒体にした遊びが繰り広がります。

日々の保育での取組とともに、「特別な日」の取組も子どもたちの興味・関心をかき立てます。

みどり幼稚園(宇都宮市)では、月1回のお誕生会で園長先生の読む紙芝居がとても 人気があります。雰囲気作りから始まり、ピアノや他の楽器などの効果音が入った上演 に、子どもたちは朝から「今日は何の話かな。」と期待しています。

発表会も本を意識するよい機会となっています。「自分たちはどんな芝居をしよう。」とか「あのお芝居の話、読んで欲しいな。」と、本を手に取ることが増えます。何度も繰り返し読んでもらったり、自分で読んだりして、話に親しみイメージをもつことで、子どもたちはそれぞれの役を演じ、自己表現の場となっています。

本調査では、「子どもたちが本好きになるには、保育者自身が本好きであること」という言葉をどの園でも聞きました。子どもたちは、「楽しくさせてくれる」「ワクワクさせてくれる」「感性を揺り起こしてくれる」読み方や、自分の欲しい情感を求めています。保育者が読んでいて楽しいと思うときには、子どもたちも話に引き込まれてきます。

また、それぞれの園では、園の本を家庭に貸し出したり、子どもが家庭から持ってきた本をみんなの前で読んであげたり、家庭での読み聞かせを依頼したり、人気ランキングを紹介したりするなど、子どもたちの生活の場である家庭と園の双方で、読書の環境づくりに取り組んでいます。このように、乳幼児期における親子のふれあいの中で、本への親しみをもつように読み聞かせをしたり、一緒に本を読むなどの工夫をしたりして、子どもが読書と出会うきっかけを作って効果をあげています。



読み聞かせを通したふれあい(家庭)

2 全校一斉読書活動 - 読書に夢中になるひととき -

児童生徒が本に親しむこと、読書時間や読書量を確保すること、落ち着いて一日の 生活を始めることなどをねらいとして、多くの学校が全校一斉の読書活動を取り入れ、 効果を上げています。

(1)「朝の読書」活動

取組の概要

ここ数年、読書活動による様々な効果を期待し、多くの学校が全校一斉読書活動を 取り入れています。その代表的なものが「朝の読書」活動です。

「朝の読書」活動を実施している多くの学校は、一日を落ち着いた雰囲気の中で始められるようにという、児童・生徒指導の意味合いから導入した学校が多くありました。しかし、その後、「朝の読書」の効果が認識されてくるにつれ、1冊の本を読み通すことや、本を読む習慣のあまりない児童生徒にも本に出会う機会を提供することなども意識されるようになってきています。

「朝の読書」を含む全校一斉の読書活動の実施状況は、全国の公立学校の平均が小学校84.0%、中学校70.0%、高校30.2%であるのに対し、本県では小学校97.9%、中学校94.7%、高校51.5%²(平成14年度「学校図書館の現状に関する調査」)であり、

全国平均を大きく上回っています。

また、本調査では、聴き取りを した多くの学校が、平成14年度を 中心としてその前後に「朝の読書」 を導入したことがわかりました。 しかし中には、昭和63年度から 施し、今年で17年目となる矢板市 立矢板中学校や、昭和50年度から 実施し、30年にわたり継続してい る今市市立今市小学校のような例 もありました。



朝の読書活動の様子

「朝の読書」の実施頻度は、半数以上の学校が毎日実施しており、その他の学校では、週4回、週3回、週2回と各学校の実情に応じて実施しています。また、「朝の読書」の実施時間は、10分間、15分間、20分間という学校がほぼ同じ割合で、中には、25分間実施している学校もありました。

活動の内容としては、「朝の読書」の時間に、児童生徒が主体的に、そして自由に 読書を行うものが主となっています。それ以外にも、様々な形態での読み聞かせ、ブックトーク³などの本の紹介、また多読賞への挑戦などがあります。各学校では、読書への児童生徒の興味・関心を高めたり維持したりできるよう、学校行事との関連を 図ったり、様々な工夫を凝らしたりしながら取り組んでいます。

- 2 平成16年度は小学校99.1%、中学校95.3%(平成16年度教育課程に関する調査)
- 3 ブックトーク...テーマを決めて本の内容を紹介する活動。

実践上の工夫

実践上の工夫として、多くの学校が配慮し、効果が上がっていることについては、 次のような共通点がみられます。

一つは、教師、特に学級担任も一緒に読書活動ができるようにしていることです。 職員の朝の打合せを毎日ではなく、曜日を決めて行うようにしている例もあります。 今市市立今市小学校では、職員打ち合せを朝行うのではなく、前日のうちに(4:45から)終礼という形で行うようにして、「朝の読書」の時間には教師が児童生徒と一緒に読書できるようにしています。ある教師からは、「『朝の読書』は、生徒と先生が同じ時間を共有する貴重な時間です。」との感想が聞かれました。また、市貝町立市貝中学校のように、教師と児童生徒のふれあいの時間という意味で、主として副担任が生徒と一緒に読書するようにしている学校もあります。

もう一つは、学級文庫の整備・活用です。24ページで詳しく述べますが、多くの学校で学級文庫を設置し、定期的に本の入れ替えを行い、児童生徒の身近に本がある環境を作っています。また、児童生徒に読ませたい本や発達段階を考慮した本を意図的に置くことによって、効果を高めている学校もあります。

取組の成果

様々な効果を期待して導入している「朝の読書」に関して、実際に取り組んだ学校の児童生徒の様子や感想および教師の感想などを、「朝の読書」の成果として紹介します。

真岡市立長田小学校では、帰りの会終了後、児童は翌日の「朝の読書」で読む本を 机上に準備してから下校します。真岡市立中村東小学校や南河内町立南河内中学校で は、児童生徒が、登校して荷物の整理が終わると各自それぞれに読書を始めます。

小川町立小川中学校では、生徒及び教師を対象に読書活動に関するアンケート調査を実施しました。その結果、約8割の生徒が「朝の読書」により「本を読むようになった」「少し読むようになった」、6割以上の生徒が「落ち着いた学校生活がスタートできている」と感じています。同様に教師も、「生徒は本を読むようになった」「落ち着いた学校生活がスタートできている」と感じています。矢板市立矢板中学校では、かつて、半年間ほど「朝の読書」を行わなかった時期がありました。その時期と比較すると、「朝の読書」を実施している現在は、「一日を落ち着いた雰囲気で始めることができる」という実感を、教師も生徒も、ともにもっています。生徒が進学した高校の先生からは、「矢板中出身の生徒はよく本を読む。」と言われるなど、実績と定評のある活動になっています。

南河内町立南河内中学校では、着任したばかりの教師が「生徒が落ち着いており、 言葉遣いもしっかりしている。また、じっくり考えたり、人の話を聞こうとする態度 が形成されており、話し合い活動もしっかりできる。」と感じているように、生活面 や学習面での効果があがっているようです。

この他にも、「楽しいときには楽しい、悲しいときには悲しいという感情を読書の中で得られているようです。」(小川町立小川中学校)や、「子どもたちに読書の時間(「朝の読書」や雨の日の読書の時間)を与えるだけで、本が生活の一部になってきたように思う。もしも、この時間を与えなかったら、本にふれることも少なくなり、

子どもたちどうしや、子どもと教師、子どもと親の会話の中に本の話題が入ってくることもなかったと思う。」(真岡市立中村東小学校)などの教師の感想や、「読書を通して、人の気持ちをよく理解しようと思ったり、身の回りの出来事をよく観察したりするようになりました。読書が好きになりました。」(宇都宮市立清原中学校)という生徒の感想から、読書が児童生徒や教師・保護者へも大きな影響を及ぼしていることがわかります。

(2)その他の全校一斉読書活動

学校の立地条件により、朝以外に時間を確保して全校一斉読書活動を実施している 学校もあります。

南那須町立江川小学校では、児童がスクールバスで通学しているため、登校に時間差が生じ、朝の一斉読書活動を設定することが困難です。そのため、10:25~10:40の15分間を読書の時間とし、その後10分間の休み時間を取っています。

全校一斉読書活動を始めても、朝の自習へと置き換わっていったり、次第に期間が限定されたり、日数が限定されたりと規模が縮小している学校もあるようですが、江川小学校のように時間割を工夫して取り組むことも継続するための一つの方法と考えられます。

(3)生活記録ノートを利用した心のふれあい

「朝の読書」活動は、「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」の4つを原則とした取組ですが、ここでは、生徒どうしあるいは生徒と教師との心のふれあいまでをねらいとした取組を紹介します。

市貝町立市貝中学校では、読書の記録を「生活記録ノート ⁴ 」の「私の読書記録」 欄に書くようにしています。読書後の感想等を中心に、読書についての自分の思いを生活記録に残すようにしています。生徒は、友達に勧められた本を読んで感動したことや、国語の授業で学習した作家の他の作品を読んだ感想などを記入しています。また、担任は、生徒の感想などに対し、その都度コメントをつけて返却しています。このように、読書を通して子どもが感じたこと、考えたことについて耳を傾け、伝え合うことを共有することは、生徒と担任との心のふれあう機会を生むばかりではなく、読書の意欲を喚起する上で有意義であると考えられます。

		私	の読書記	録
「あ	ゆみ」の後ろり	に載せてある「市貝印	中の百冊」を読んで	みよう。
Nα	期 問	書 名	作者名	感想
1	8 л 9 в 8 л 12 в	西のましょかり死んたり	梨木 香步	主人公からせんちく…をい 設定できたできる所かいい。からいまり、進んで読む事

読書の記録

⁴ 生活記録ノート・・・授業の準備、予定、家庭学習の様子、一日の感想や反省などを記述するためのノート。

3 読み聞かせ - 本を通した人とのふれあい -

読み聞かせを実施している学校の子どもは、人の話を聞く力や態度が備わっているばかりでなく、あいさつがしっかりできたり、はっきりした言葉で話すことができたりするように、コミュニケーションの能力や話す力も育っています。これは読み聞かせをしていない学校から転勤してきた複数の教師の実感として語られた言葉です。

全校一斉の読書活動を取り入れている学校の中には、子どもたちの読書意欲を高めることなどをねらいとして、読み聞かせを取り入れている学校があります。特に、一人で本を読み通す力がついていない段階の子どもを本に慣れ親しませ、読書好きに導くために、読み聞かせは大変効果的な方法と考えられます。それらの学校では、より多く読み聞かせの機会を設けることによって、本に親しむ子どもが増えています。また、読み手と聞き手との心の交流も生まれています。本調査に当たって取材に協力いただいた各学校では、以下に紹介するような様々な形態の読み聞かせを実践しています。

(1)教職員による読み聞かせ

担任による読み聞かせ

担任による読み聞かせによって、子どもたちは本を楽しむだけではなく、先生や友達とのふれあいの機会が増えています。

小川町立小川中学校では、生徒の読書への意欲を高めると同時に、本を通して教師と のふれあいを深めるために、主に4、5月の「朝の読書」の際に、担任による読み聞か せを適宜行っています。

不登校生徒が小学校から中学校にかけて急増することやいじめ問題などが中学1年生に多いことが問題視される中(「生徒指導上の諸問題の現状について(概要)」平成16年8月、文部科学省)、入学当初に行われる担任による読み聞かせは、とりわけ入学時という不安な時期にいる1年生にとって、気持ちを和らげ、教師と、あるいは生徒どうしのコミュニケーションを取りやすくするうえで有効な手立てになっているようです。小学校や幼稚園・保育園の担任と比べて、学級の子どもたちとふれあいをもつ時間が少ない中学校や高校の担任にとっては、読み聞かせや本を通して話題を共有することで、生徒との心のふれあいの機会が生まれているようです。

ある担任の教師からは、「『朝の読書』の時間に、国語の教科書に載っていた小説を読み聞かせたとき、生徒は、普段見せたことのないような真剣なまなざしで聞き入っていました。以前、同じ小説を女優が朗読しているCD教材を聞かせたことがありましたが、生徒はただ淡々と聞いているだけでした。読み方は女優のようにうまくはないけれど、教師の生の声で読み聞かせすることの方が、子どもたちの心に響くものなのか、と思いました。」等の感想が聞かれました。生徒の感想には、「『朝の読書』を通して、友達や先生、親によく本の紹介をするようになった。」「あまり話をしなかった友達と、同じ本を話題にして話すようになった。」「先生が読み聞かせをしてくれた後、同じ作家の本を私も読みたいなと先生に尋ねました。」などと、「朝の読書」や読み聞かせを通してコミュニケーションの輪が広がっていることが実感されています。

担任以外の教職員による読み聞かせ

担任以外の教職員による読み聞かせによって、子どもたちは本を楽しむだけではな く、人との出会いを広げています。

教科担任制を取っていない小学校などでは、担任以外の教職員による読み聞かせは、 児童にとって様々な人との出会いを広げていく機会となります。特に、校長による読み 聞かせは児童にとって一層新鮮な体験になっているようです。

宇都宮市立富士見小学校では、毎週水曜日に、「朝の読書」の時間を利用して、校長が1年生から6年生まで1クラスずつ順に回り、読み聞かせを行っています。田沼町立吉水小学校では、毎週月曜日に、校長がボランティアとともに読み聞かせを行っています。

真岡市立長田小学校では、平成11年度から、「朝の読書」の時間を利用して、月に1度、事務職員なども含めた全職員で読み聞かせ(よむよむタイムスペシャル)を行っています。児童は、月に1度行われる担任以外の教職員による読み聞かせを楽しみにしています。担任以外とコミュニケーションをとる機会の少ない小学校においては、児童と教職員との貴重なふれあいの場になっています。さらに、図書館に教職員が読んだ本の紹介コーナーを設け、「よむよむタイムスペシャル」後に児童がそれらの本をいつでも借りられるようにするなど、読書への意欲付けや環境づくりにも配慮しています。

真岡市立西田井小学校でも、「読書いっぱい大作戦」と題して「朝の読書」強化週間、 校内読書週間などに集中して読み聞かせを実施しています。下表は平成15年度に、全校 体制で実施された「読書いっぱい大作戦」の主なプログラムです。

プログラムにある「おはなしたまてばこ」とは、予め図書館だよりを通して児童に読

月	日	内容		
10月 9	日(木)	担任による読み聞かせ		
10月16	日(木)	おはなしたまてばこ(風山先生+学級担任)		
10月23	日(木)	おはなしたまてばこ(校長先生 + 高村先生 + 学級担任)		

「読書いっぱい大作戦」の主なプログラム



児童の感想

み聞かせをする人と本とをいる せておき、児童は、聞きたい話 の読み聞かせを行っている教室 に出かけて行って聞くといる 動です。児童の感想にもあるい 動に、校長をはめ普段かいるよう ふれあいをもつ機会が少なれる いが、この「おはなしたまてばす。 を通して広がっているようです。

(2)児童生徒による読み聞かせ

図書委員や上級生などによる読み聞かせによって、読み手の表現意欲や責任感が培われ、聞き手とのふれあいが生まれています。

図書委員による読み聞かせ

石橋町立石橋小学校では、「朝の読書」の時間を利用し、年に数回、図書委員による 読み聞かせを行っています。南那須町立江川小学校でも読書週間の際に、5、6年生の 図書委員が1、2年生に読み聞かせを行っています。両校では、読み聞かせをしてもらった児童の中に、上級生になると下級生への読み聞かせを希望する児童が出てきています。また、下級生への読み聞かせを募集すると、6年生では定員を上回る希望者が集まるなど、読み聞かせブームが起こっています。読み聞かせの技術に巧拙はありますが、 懸命に練習して読み聞かせに臨むなど、児童の中に表現したいという意欲が育っているようです。また、家庭で弟や妹に読み聞かせをする児童が現れるなど、読み聞かせを通して人と関わりを持つ子どもたちが育っています。

上級生などによる読み聞かせ

宇都宮市立富士見小学校では、「朝の読書」の時間に、6年生が5年生に、4年生が3年生に、2年生が1年生に、異学年交流活動として読み聞かせや本の紹介などの活動を行っています。読み聞かせをしてもらった下級生の中には、「大きな声でわかるように読んでくれたので、絵本の中にいるような気持ちになりました。」、「読み聞かせをしてもらった本を図書館で見つけると、また読んでみたい



上級生による読み聞かせ

と本を借りてしまいます。」と感想を話すなど、発表したり聞いたりする活動を通して、 学びあい励ましあう心が育っています。(『本との出会い、人とのふれあい - 「本を通 した心のふれあい」体験談 - 』平成16年11月刊行 栃木県総合教育センター参照)

藤原町立川治小・中学校は、同じ敷地内に校舎がある、いわば併設型の小・中学校です。両校では11月を読書月間と定め、その取組の一つとして、中学生から小学生への読み聞かせを全校あげて行っています。最初に1時間、ボランティアが中学生に読み聞かせを行います。その後、中学生は約1週間、放課後等を利用して読み聞かせの練習に励みます。1冊の本を全員で分担して読むため、それぞれが責任をもって練習に取り組みます。取組の第2週目に、中学3年生が小学5、6年生に、中学2年生が小学1、2年生に、中学1年生が小学3、4年生に対して読み聞かせを実施します。中学生からは、「読み聞かせを通して本を読むことが好きになりました。また、声に出して読むことに少し自信がつきました。これからもこのような機会があったらぜひやってみたいと思います。」というような感想が述べられています。

茂木町立中川小学校の高学年では、朝の会や帰りの会で、日直の児童が、学級文庫に 配架してある詩集から詩を選び、同級生に読み聞かせを行っています。

(3)読書ボランティアによる読み聞かせ

読書ボランティアによる真心のこもった読み聞かせによって、子どもたちは本の世界に引き込まれ、本の魅力や醍醐味を味わううとともに、地域の人たちとの人間関係が広がっています。

民間の読書ボランティアによる読み聞かせ

氏家町立熟田小学校では、町のボランティア団体「アリスの会」による読み聞かせを、 平成8年度から年間行事計画に位置付けて実施しています。全校児童を対象に、月に1 度(原則として第4火曜日)、「朝の読書」の時間に、町の図書館の読み聞かせ講座を 受講した「アリスの会」のメンバーが、本のおもしろさを読み聞かせを通して伝えてい ます。

足利市立山辺小学校のボランティアは、読み聞かせの他に、パネルシアター、エプロンシアター、キュービックシアター、民話の素語り、紙芝居等を行い、本を通した児童との交流を深めています。

石橋町立石橋小学校では、読み聞かせのボランティアだけでなく、民話の会のボラン ティアが民話を語り聞かせるなど、様々なボランティアとの交流を深めています。

読み聞かせの研修等を受けるなどして、優れた技術を身に付けた読書ボランティアによる心のこもった読み聞かせによって、子どもたちは本の世界に引き込まれ、本の魅力や醍醐味を味わっています。

保護者ボランティアによる読み聞かせ

田沼町立吉水小学校では、「朝の読書」の時間(8:10~8:20)のうち、毎週月曜日 に保護者と地域から募集したボランティアが読み聞かせを行っています。

宇都宮市立富士見小学校でも、「朝の読書」の時間(8:15~8:30)のうち、毎月第 1水曜日に、保護者から募集したボランティアが、全クラスで読み聞かせを行っています。読み聞かせに使われた本は、その後貸し出しが増加するなど、子どもたちは、読み聞かせによって読書への興味・関心を高めています。保護者ボランティアが「私が子どものとき、母に読んでもらった本よ。」と本を紹介したところ、子どもたちはボランティアがその本を持っていたことに対する驚きと、その本を読み聞かせしてくれたことに

感動を覚え、その後 1 か月間、読み聞かせに使われた本は多くの子どもたちに貸し出されたという例もありました。また、読み聞かせに使われた本を図書館に借りにきて、その本をうれしそうに担任に見せに来る児童もいました。本とはさほど縁がなく、休み時間には運動を優先していた児童が、友達と誘い合って図書館に本を借りにきたという例もありました。

今市市立今市小学校でも、毎週水曜日、 「朝の読書」の時間に、保護者ボランティアによる読み聞かせを全クラス



保護者ボランティアによる読み聞かせ

で行っています。読み聞かせする本は、季節や児童の発達段階に応じた本、心に残る本、楽しい本などの観点からボランティアが選んでいます。ボランティアは、「読み聞かせの記録」に、書名や読み聞かせした際の児童の様子を記録し、ボランティア間で情報交換を行っています。また、ボランティアどうしで先進校を視察し、他校のボランティアと交流をもつなどして研修に努めています。

	読み	 聞かt	せの記録))	NO.
	担当	1 (2-	1,2-2) E	5名(_)
NO	月/日(曜日)	クラス	書	名	結果	メモ
1	9/3	2-/	わたいのろばべいねこのたいやき	ジャミン	0	新学期できわうてかと思いさや計のに 集中にて楽しんでくれた、ハンジャミンスをいいか よいので夢でいかでいた。「ニッやきの
2	9/17	2-/	花さきやま おだんごばん		@ @	オもなかからかった。先生のなかも⑥ ⑥ けるかとなり、2冊目はかけなではないます。 じーコンストーリーにきさいっといまけれた おだんごはんの話すなは、現かいい、と 大きな思議のがおよった。
3	10/	2-/	スイミー どろぼうがっこう		© ©	スイニーだいり、と参照を別見され さいしょの単ないらは大合いる! 12のしんか じっくりきいていた。こ時日もと3月3年かの 生任のセリフが大学が、墓中したさいないた。
4	10/8	2-/	三れんね1-3 おおきなおおきな		(i)	音話が好きなんだないる。かたうつの言葉に 身をのりだしてきいいる。かたうつの言葉に 大笑い。1件16分位かかるかあきなから よりですかける2月日も楽しんでいた。
5	10/15	2-/	きんつばじへい ともだち	1	0	かしおちつかない子もいたが、入りりつに ひきつけられじないまに参加に集中にな いった、工具目は本名に何なた

読み聞かせ後のボランティアの記録

上河内町立西小学校では、同校の「総合的な学習の時間」の創設(平成 12 年度)に当たり、学校支援ボランティアとして、人材バンクへの登録を保護者に募り、集まったメンバーが本の整理や修理などの取組を始めました。その活動がやがて読み聞かせの活動に発展し、現在では、広報誌を発行したり、町雇用の学校図書館巡回司書と連携してディスプレーや掲示物の作成も行ったりしています。

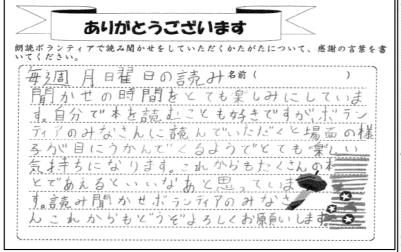
読書ボランティアが読み聞かせをしている学校の子どもたちの多くは、「今日はだれのお母さんが読み聞かせに来るのかな。」と楽しみにしています。「この間読んでもらった本を図書館に借りに行きました。」という子どもや、「友達に『この本おもしろいよ。』と勧める姿を数多く目にするようになりました。」という先生の言葉などから活動によって子どもたちの読書に対する意識が変わってきていることがわかります。また、「私の読み方が上手下手にかかわらず、じっと見つめて聞いてくれる姿に感動します。」といったボランティアの声も聞かれました。子どもたちのことを思いながら本を選び、どきどきしながらも一生懸命に読んでくださるお母さんたちの心や姿が子どもたちにしっかりと伝わり、じっと耳を傾ける姿が生まれてきているのだと思われます。読み聞かせは、本を楽しむとともに、温かい心のふれあう素敵な時間となり、子どもたちの心を知らず知らずのうちに豊かにしているようです。

平成16年4月 日
小保護者樣
T立 小学校長
図書整備・読み聞かせボランティア募集について
春暖の候、保護者の皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。
日ごろ、学校教育活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。
さて、今年度も図書整備ボランティアと読み聞かせボランティア募集いたします。
 (活動内容等は裏面別記を御覧ください。)
 子どもたちの読書意欲を高めるためにも、多くの方に御協力をいただければ幸いです。
 担任を通して、4月20日(火)までに御連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。
なお、不明な点がありましたら、図書係 赤坂まで御連絡ください。
(/\ 62 -)
()
 児童名 (年 組)
保護者名()

読書ボランティア募集の通知文

多くの小学校が読書ボランティアと児童との交流の一環として、感謝の集いを実施しています。今市市立今市小学校では、2月末の「朝の読書」の時間に読書ボランティアへ感謝の集いを実施し、児童と読書ボランティアとの交流を深めています。図書委員が招待状を作成し、ボランティアを各クラスに招待します。クラスごとに歌やゲーム、感謝の手紙の贈呈などを行い、感謝の思いを伝えています。

田沼町立吉水小学校や茂木町立中川小学校でも、朗読ボランティアや図書館整備ボランティアに児童がお礼の手紙を書き、日頃の活動に対し感謝の気持ちを伝えています。





読み聞かせ後の感謝の言葉やお礼の手紙

4 親子読書 - 親子のふれあいを目指して -

親子読書は、温かいふれあいの時間を家庭にもたらしています。

(1)親子読書

真岡市立長田小学校では、図書館便り「本のたまてばこ通信」を通して読書への意識の向上を図り、家庭での1日20分の親子読書を勧めています。特に長期休業中には、で感想を書いてもらったので感想を書いてもるにしています。高学年になるにしれます。高学年になるにいます。一次であるにいます。とです。とです。

黒磯市立東原小学校でも、毎月 第1、第3木曜日を「家庭読書の 日」として親子読書を呼びかけて います。本を通して親子のふれあ いの機会にしてもらおうという意 図で始めたものです。自主的な取 組を目指しており、宿題という形 での取組ではなく、感想等も求め ていません。

本のたまてばこ诵信

H.16. 6 小学校

本を読むことは、心を耕すこと



毎朝始業前の10分間は、読書の時間になっています。全校に、静かな時間が流れ、心豊かな思いに浸ることができ、子どもたちの楽しみの時間になっています。今年度は読書のめあてを達成できるように、月ごとに自分でめあてをたてて、取り組んでいます。この読書の時間をとおして、本が好きになった子どもたちもたくさんいます。本を読むことで、想像の世界を広げ、考える力をつけ、体験できないことも疑似

体験できるのです。本を読むことや読み聞かせをすることは子どもたちの心を耕すことだといえるでしょう。わたしたち大人は、子どもたちが素敵な本と出会い、心を揺さぶられたり感動したりする時と場をつくってあげたいもので

親子読書をしましょう

子どもたちは、本を読んでもらったり読んだりすることが大好きだと思います。ところがなかなか時間がなかったりテレビやゲームに夢中になったりと、読むチャンスを逃しているようにみえます。少しの時間でも、子どもさんといっしょに本を読む時間をつくってくださればうれしいです。おうちの方が読み聞かせてあげてもいいでしょう。また、1 ページずつ読み合うのも楽しいですね。選んだ本を見て、子どもたちが興味を持っていることを知ることもできます。

また、高学年であれば、親子で違う本を読み合い、後で交換して読む。親が小学生の頃に読んでいた本を紹介し、読む。等の活動もあると思います。違う本を同じ部屋で読むというだけでもいいと思います。お忙しいとは思いますが少しの時間を子どもたちとの読書につかってあげてください。

親子読書のしかた

- 1 1日のうち、20分を読書にあてる。
- 2 親子で本を読む
 - ・お子さんが選んできた本を読み聞かせ

図書便りによる親子読書の勧め

平成16年度は、児童の読書と親子読書を推進するために、学童保育 ⁵や部活動が終わるのを待っている迎えの保護者や、部活動が終わった子どもたちに、学校図書館の活用を呼びかけています。その中で、毎週木曜日は、午後6時30分まで図書館を開館し、親子がともに読書をするための本の貸し出しを始めました。今では多くの家族が図書館を利用し、親子読書のための本を借りるようになっています。

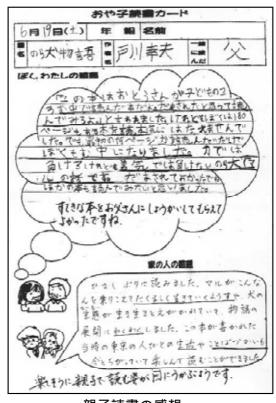
宇都宮市立富士見小学校では、毎月第3日曜日の「家庭の日」を「親子読書の日」とし、平成15年度から親子読書を始めました。読後には、「おや子読書カード」に書名、作者名、親子それぞれの感想等を記入し、担任に提出します。平成15年度は毎月1回の宿題として実施しましたが、平成16年度は無理なく継続して取り組めるように年5回の実施とし、提出も任意として取り組んでいます。保護者からは、「親子読書をきっかけに、本について親子で話し合ったり、子どもといっしょに本屋に行くようになった。」「親子読書を父親と取り組むことに喜びを感じている。」などの、取組に対する賛同の声が寄せられています。

5 学童保育・・・小学校の児童を放課後も預かる事業。

茂木町立中川小学校では、4月23日の「子 ども読書の日」に関連した取組として、ゴー ルデンウィーク中に親子読書に取り組むよう 図書館だよりで呼びかけています。

親子読書は、児童の読書意欲を高めるとと もに、温かい親子のふれあいの時間を家庭に もたらしています。

(2)「テレビを消して時間を作ろう」運動藤原町立川治中学校では、平成16年度に、PTA会長の提案により、「テレビを消して時間を作ろう」運動と題した取組を行っています。家庭で毎日1時間程度テレビを消して、読書や学習や団欒の機会をもつよう、PTA会長と校長から保護者に呼びかけています。7割から8割程度の家庭で実際に実施されているとのことです。



親子読書の感想

5 本の紹介活動 - 感動の共有を通して -

本の紹介活動を通して、読書の幅が広がり、本の楽しさを味わう機会が増え、本好きの子どもが育っています。また、自分の思いを人に伝えたいという気持ちが喚起され、伝え合う力やコミュニケーション能力が身に付いています。

(1)ブックトーク

矢板市立矢板中学校では、月に1度「朝の読書」の時間に、全職員とボランティアによるブックトークを行っています。年度の最後のみ学級担任が担当し、それ以外は学級担任以外の全職員とボランティアが担当します。図書館司書が決めたテーマに基づき、各回の担当が本を選びブックトークに臨んでいます。ある生徒が卒業に際して、

「知らなかった本に出会うことができました。ありがとうございました。」という手紙を図書館に残していったとか、ブックトークが始まってからは教職員の読書量が増え、様々なジャンルの新しい本が教職員の机上に置いてあることが多くなったというようなエピソードが示すように、生徒,教職員双方の読書の世界を広げる効果が表れています。

小山市立網戸小学校では、休み時間を 利用した全校児童参加の読書集会で、図



図書委員によるブックトーク

書委員によるブックトークを行っています。そこで紹介された本は、その後貸し出し が増えるなどの効果が表れています。

真岡市立長田小学校でも、帰りの会の際に、各クラス2~3人の児童が、自分が推薦する本の感想やあらすじを発表する時間を設けています。発表の仕方については、低、中、高学年用の3種類のマニュアルを児童に示し、わかりやすい発表になるよう工夫しています。紹介された後には、「 さんが紹介した本を貸してください。」と図書館に出かける児童や、友達間で本の貸し借りをして感想を話し合ったりする光景が見られます。

(2) 読書郵便

南那須町立江川小学校では、秋の読書週間の取組の一環として、児童が、感動した本やおもしろかった本、ためになった本などについてはがきを使って友達に紹介する活動を行っています。児童は、校内に2か所設置されたポストに、友達あてに作成したはがきを投函します。そして、図書委員がはがきを回収し、各クラスのポストに運びます。図書委員によって届けられたはがきを、担任が該当する児童に手渡しする仕組みです。はがきを受け取った児童は、友達から心のこもった本の紹介をしてもらうので、はがきに記載されている本を借りたいと図書館に本を借りにくる児童が増えて

います。紹介してもらって読んだ本を、 読書郵便を通して別の友達に紹介する など読書郵便を通した読書の輪が広が っています。休み時間には、読んだ本 の感想を話し合ったり、紹介してくれ た友達に「楽しい本を紹介してくれて「 ありがとう。」とお礼を言ったりする ようになっているとのことです。紹介 をしてもらった児童は、紹介してくれ た児童にお礼の返事を出すなど読書郵 便を通した交流が深まっています。さ らに、「クラスで本を読み合いましょ う」をスローガンに読書運動を進めて いる学級では、児童間だけでなく先生 にもカードを書いて送るというような 光景も見られています。友達と同じも のを読むことによって、友達とのコミ ュニケーションや一体感が生まれてい ます。



読書郵便で投函されたはがき

(3)図書紹介コーナー

小山市立網戸小学校では、生徒昇降口 ホールの壁面を利用して「おすすめの本 コーナー」を設けています。右写真のよ うに、大きな木の枝の貼り絵に児童が書 いた図書の紹介記事を掲示し、親しみや すい紹介をしています。なお、昇降口ホ ールでは、業間の時間を利用して図書委 員によるブックトークなども行っていま す。

茂木町立中川小学校では、お勧めの1 冊を紹介した全校児童分のカードを図書 館に掲示して読書の啓発に努めています。



図書紹介コーナー

氏家町立熟田小学校では、図書ボランティアが本の紹介コーナーを利用して、図書 紹介のためのディスプレー作業を行っています。昼休みの時間には、児童も一緒に図 書紹介コーナーの飾り付けを行ったりしています。梅雨時には、アジサイの花をあし らい、夏休みを間近に控えた7月には、海を一面にデザインして海をテーマにした本 を紹介するなど、季節に応じた本の紹介をしています。飾り付けによって子どもたち の注目も集まり、図書館の本の貸し出しも増えています。図書館に集まった児童が飾 り付けの活動をボランティアと一緒にしながら、ボランティアから本について様々な 話を直接聞いたり、紹介を受けたりするなどの心のふれあいを通して、本が好きにな り、図書館の本を借りる児童が増えているようです。

- 本好きな子どもの育成を目指して -6 様々な読書推進活動

「読書週間」や「読書祭り」などを学校行事に位置付け、読書の推進活動を意図的、 計画的に行うことで、子どもたちは本に親しみ、進んで読書するようになっています。

(1)読書週間・読書祭り

多くの学校では、主として秋に読書週間を設けて重点的に読書活動に取り組んでい ます。真岡市立中村東小学校でも、読書と学校図書館への関心を高め、図書館の利用 を勧めるために、図書委員会を中心にして、担当教師の支援を得ながら、秋の読書週 間に校内読書祭りを実施しています。保護者からは、「読書祭りには 、以前にも増し

手作りしおりの配布 多読賞の表彰 読書感想文の募集と表彰 読書イラストの募集と表彰 大型紙芝居の実施

・校内読書祭りの活動(中村東小) ─ て読書をする時間が増えているようです。」「親子 の対話の機会が増え、内容にも深まりが出てきた。」 「図書館の利用が多くなっており、日常会話や日記 (班ノート)にも読書のことが話題になるようにな り、読書が少しずつ生活の一部になりつつあるのを 感じる。」などの感想が寄せられています。また、 教師からは「本にふれる機会を意図的に用意するこ

とで、子どもは本当に本が好きになっていくようです。」「以前には、好きな本を家か ら持ってきて保健室登校をする児童がいましたが、卒業時にはそれらの好きな本や養 護教諭に紹介されて購入して読んだ本を保健室に寄贈していってくれました。」など のエピソードを聞くことができました。保健室登校の子どもにとっては、読書祭りを 始めとする様々な読書活動を通して多くの本と出会うことができた喜びと、それを支 えてくれた養護教諭に感謝し、感動を与えてくれた本を寄贈していったのだと思われ ます。

多読賞、読破賞の実施

小山市立網戸小学校では、学期毎(年3回)に読書週間を設定し、図書委員が活動 の企画や計画、準備、運営等の中心となって、下記のような、様々な読書の推進活動 を行っています。ここでは必読図書の読破賞や多読賞について紹介します。同校の必 読図書は、子どもたちにぜひ読んでほしい図書を各学年毎に10冊教師が選定するもの で、いつでも読めるよう学級文庫に備えています。児童は本を読み終えると読書カー ドに記録します。カードは、書名や作者名のみを記録させるものや、簡単な感想まで

- (1)読破賞や多読賞の表彰
- (2)しおりづくり
- (3)読書クイズ
- (4)図書委員による手作り紙芝居と 本と読み聞かせ
- (5)先生による読み聞かせ
- (6)読書感想文の発表
- (7)学年別音読発表会(暗唱発表会)

読書週間の活動(網戸小) ── 記入させるものなどがありますが、児童の実態や 発達段階に応じてカードを使い分け、感想文を強 制することで読書嫌いにならないような配慮をし ています。必読図書をすべて読んだ児童には、読 破賞を授与し表彰しています。

> また、多読賞は、2学期の読書週間に、各学年 上位3名程度を表彰するものです。図書委員が心 を込めて手作りの賞状を作成し、表彰することで、 平成15年度には1か月に100冊以上読んだ児童も [」]数人でてきました。「移動図書館の本を予約する

ことが多くなったり、書店に連れて行ってくれとせがんだりするようになった。」と いうような感想も保護者から寄せられるようになりました。このように、図書委員が 中心となって読書の推進のため数々の活動を積極的に進めていく中で、放課後や昼休 みに図書委員の仕事を手伝う児童も現れるなど、読書を通した心の輪が広がっていま す。

読書カード掲示コーナーを利用した読書の奨励

藤原町立下原小学校では、教師が選んだ「下原小百選図書」を中心に、読書活動を を展開しています。各学級に「下原小百選図書」の読書カード(一言感想文)掲示コーナ ーを設け、読了した児童のカードを掲示することで読書を奨励しています。また、学 級担任は、児童から提出された読了表にシールを張り、読書カードにコメントを書く ようにしています。学級担任は、児童一人一人の読書の様子をつぶさに観察し、多く の児童と本を話題にしながらコミュニケーションをとっています。その結果、読書に 励む児童が以前より増えています。

(2)朗読発表会

小山市立網戸小学校では、読書週間の一環として朗読発表会(内容は暗唱)を実施 しています。「朝の読書」の時間や家庭学習の時間を利用して、暗唱した詩や物語の

一節などをクラスごとに全校児童の 前で朗読しています。「人前で発表す るのが苦手だった児童も、大きな声 で暗唱できるようになりました。」と 教師が感想を述べています。聴きら りに訪問した際に行っていた第69 年の暗唱は「オッペケペー節」「いる はかるた」「平家物語」でした。いず れも、詳細な意味まで理解して語ん じているのではないと思われますが、 耳に心地よい日本語のリズムが聞い ている側にも確かに伝わってきました。



朗読発表会の様子

児童は朗読発表会を通して、日本語の持つ独特の言い回しやリズムを身に付けていきます。

真岡市立中村東小学校でも、1年間に6回、それぞれ1回につき2学年ずつ、全校生の前で発表する朗読発表会を開いています。国語の教科書教材や、『声に出して読みたい日本語』で紹介された作品などの発表を行いました。教師からは、「朗読発表会などを通して、児童の聴く耳、聴く心が育っているようです。」との感想も聞かれました。

(3) 子ども読書の日

氏家町立熟田小学校では、4月23日の「子ども読書の日」の第3校時に、教室、ワークスペース、校庭などでクラスごとに学級担任と児童が一緒に読書をしています。 教室や図書館を離れ、異なった環境の下で読書ができることは、児童にとってとても 新鮮なことのようです。また、教師とともに読書にふける1時間は、時間の感覚がな くなるほどあっという間に過ぎ去ってしまうようです。

(4)ブックリスト

石橋町立石橋小学校では、教師が読み聞かせをする際の参考にするために、学校の 図書館にある本から選んだ、低学年用、中学年用、高学年用の学年別ブックリストを 作成しています。

小山市立網戸小学校では、各学年10冊の必読図書を選定して、学級文庫に備えています。図書は毎年見直しています。小学校低学年の児童に対しては、教師や保護者が主体となって本を選ぶことが多いようですが、学年が上がるにつれて、児童生徒、保護者からアンケートをとって選ぶなどの工夫を図る学校もあるようです。

宇都宮市立富士見小学校では、ボランティアが読み聞かせをした図書について、低 学年用、中学年用、高学年用のブックリストにまとめています。そのブックリストは、 保護者ボランティアや教師による読み聞かせの際に、図書選択の参考資料として活用しています。また、授業で活用した本に関する教師用のブックリストや児童用のブックリスト、「総合的な学習の時間」で調べ学習に使用できるよう目的に応じた多様なブックリストなども作成しています。

南河内町立南河内中学校では、生徒アンケートや教師と保護者の推薦をもとに、「南河中生の選ぶ50冊」を定めています。このブックリストは、生徒自らが作成に関わっているため、読書意欲の一層の喚起につながっているようです。

このように、様々なブックリストを作成し活用することによって、児童生徒に魅力 的な本と出会う機会を提供している学校が多いようです。



司書が選んだブックリスト

生徒が選んだブックリスト

(5)表現力や創造力の育成が図られている取組

読書感想文・読書感想画

石橋町立石橋小学校では、秋の読書 週間の一環として、B4判の紙の上半 分に読書感想画、下半分に読書感想文 を書いています。各クラスから優秀作 品を1点ずつ選び、入賞者が自分の作 品を紹介する様子を録画し、昼休みの 校内テレビで放送しています。入賞者 には賞状と楯を授与しています。

しおり、切手、はがきの作成

真岡市立長田小学校では、読書週間 に全員がしおりづくりをしています。児



読書感想画

童は思い思いに楽しみながらしおりを作り、大切に使っています。

矢板市立矢板中学校でも、10月の1週間、「朝の読書」を利用し、読んだ本に関するしおり、切手、はがきの作成を行っています。しおり、切手、はがきの図柄描写を通して、表現力、創造力や感性をはぐくんでいます。また、優秀作品数点を印刷して全生徒に配付し、読書意欲の向上を図っています。切手やはがきに描かれた本を探して読書する生徒が増えたり、しおりや切手、はがきの形に印刷されるのを目指して読書に励み、図柄を描く生徒も出るなど読書の輪が広がっています。

このように、読書感想文や読書感想画、しおり等の作成の活動は、単に読書の推進にとどまらず、子どもの表現力を高め、創造力を豊かなものにすることを目指して行われています。







読書感想画(切手、しおり)

本に親しませるための環境づくり

読書を通して心豊かな子どもを育てるためには、まず、子どもを本に親しませ、本 好きにさせる環境づくりが大切です。

ここでは、学校内での工夫や外部との連携によって、児童生徒の身近に本を置き、本に親しませる環境づくりを行い、読書活動を推進している取組を紹介します。

(1) 図書館設置の工夫

上河内町立西小学校では、従来の図書館に加え、昇降口に隣接した場所にある余裕教室。を利用して、二つめの図書館を設置しています。従来の図書館には、調べ学習に活用できる図書を配架し、余裕教室を利用した図書館には、読み物を中心とした図書を配架しています。

南那須町立江川小学校では、余裕教室を利用した二つめの図書館を、低学年の教室に隣接した場所に設置し、低学年向けの図書のみを配架しています。

これらは、学級減で使われなくなった教室を有効に活用し、二つめの図書館を設置している例です。いずれも、児童が行きやすい図書館となるよう、昇降口や低学年の教室に隣接した余裕教室を利用しています。そのため、多くの児童が登下校時や休み時間など、ちょっとした時間に気軽に図書館へ行って本に親しんでいます。また、利用目的別に図書を配架することにより、児童にとって一層利用しやすい図書館となっています。

(2) 図書の配架等の工夫

上河内町立西小学校では、読み物図書については、日本十進法分類による配架ではなく、本のタイトルに応じて五十音順に配架しています。また、本の背表紙には五十音順の色別シールを添付し、低学年の児童でも本を探しやすいように工夫しています。

また、石橋町立石橋小学校や真岡市立長田小学校では、児童が図書を返却する際、元の場所にきちんと返却できるよう、「代本板(版)」を利用しています。「代本板(版)」とは、書棚から抜き出した本の代わりにその場所に入れておく木やプラスチックでできた板です。これには、児童の名前が書かれており、本の返却場所がわかるようになっています。

⁶ 余裕教室…今後も余裕が見込まれる普通教室のことで、いわゆる空き教室のこと。





探しやすいように五十音順に配架した図書



· 代本板(版)の利用

(3) 学級文庫の工夫

今市市立今市小学校では、読書環境を整え、「朝の読書」活動を効果的に実践するため、「学級分館」を設置しています。「学級分館」とは、学校図書館の分館という位置付けで、図書館から各学級に約60冊の図書を貸し出し、学級の本棚に配架しているものです。図書は学期ごとに入れ替えを行い、児童の発達段階や興味・関心に応じた図書を配架することで、児童が意欲的に読書に取り組めるようにしています。

真岡市立中村東小学校でも、児童を本に親しませるため、学級文庫の充実を図っています。平成15年度には、図書予算の多くを学級文庫に配架するための図書購入に充てるなどして、発達段階に応じた本や、学習の参考になる本などを児童の身近な場所に配架しています。そして、「朝の読書」や国語の授業での発展読書、あるいは学習の参考資料等として活用しています。図書の管理は、各学級の係児童、担任、図書館担当教員及び図書委員が担当しています。

南河内町立南河内中学校でも、町の予算ですべての学級に学級文庫用の本棚が設置され、学校図書館から貸し出された本、学校が購入した推薦図書、教員が生徒に読ませたいと自ら持参した本、前年度より引き継がれた本など、常時100冊~200冊の図書が配架されています。

いずれの学校も、学級文庫の活用に力を入れており、常時まとまった数の図書を学級に配架しています。配架する図書は、各学年の児童生徒の発達段階に応じた内容とし、児童生徒が興味・関心をもって読書に取り組めるようにしています。児童生徒は、「朝の読書」の時間はもとより、休み時間などにも気軽に本を手に取り、読書に親しんでいます。

(4) 公立図書館との連携

小山市では、小山市立中央図書館の移動図書館「せきれい号」が市内の小学校 15 校に月1回巡回し、個人には10冊、学校には100冊まで図書の貸し出しを行っています。小山市立網戸小学校では、移動図書館が来校する日は、平常よりも昼休みの時間を長くとり、児童が本を選ぶ時間を確保しています。学校分として借り受けた図書については、学年ごとに分配し、各学級の学級文庫に配架しています。

田沼町では、町立図書館が、町内の全小学校の各学級に、約70冊ずつの図書を貸し出しています。図書は専用の箱に入れられ、各学級に配架されています。年に3回、図書の入れ替えが行われ、児童生徒は年間に約210冊の図書に出会うことができます。石橋町立石橋小学校や南河内町立南河内中学校でも、町立図書館の貸出制度を利用し、借り受けた図書を読書活動等に役立てています。

公立図書館との連携の利点は、児童生徒がたくさんの本にふれることができることです。特に、年齢や地理的条件によっては公立図書館に行けない場合もあることを考えると、学校図書館や学級文庫に配架されている以外の図書に出会う機会を学校や市町村が意図的に設けることは、意義のあることといえるでしょう。実際、これらの学校の多くの児童生徒が、移動図書館の来校や公立図書館からの図書の貸し出しを楽しみにしており、「朝の読書」活動だけでなく、自由時間に読む本としても活用しています。

(5) 司書の配置等を工夫した取組

石橋町では、町の予算措置により、町内の全小・中学校に専従の図書職員が配置されています。石橋町立石橋小学校では、図書職員が、読み聞かせに関する資料や、学校の図書館にある本から選んだ学年別の「読み聞かせ参考図書リスト」を作ったり、図書だよりを発行したりして、図書館運営や読書活動の推進に当たり、教師を強力にサポートしています。

矢板市立矢板中学校では、10年前から市の職員が専従で1名、司書として配置され、図書館の運営に当たるとともに、読書指導の中心的な役割を果たしています。図書館の運営に関しては、バーコードによる図書の管理・貸し出し業務システムが構築され、効率的な運営がなされています。

黒磯市では、市内の小・中学校すべてにバーコードによる図書の管理・貸し出し業務を行う同一のシステムを導入しているほか、図書館ボランティアを各学校に派遣しているので、きわめて円滑な図書館運営が行われています。

黒磯市立東原小学校では、黒磯市が行っている「子どもと親の相談員(週3日)」と「図書及び生活支援(週2日)」が同一の担当者で、毎日東原小学校に勤務することになっており、読書活動の中心的な役割を担うとともに、児童への細やかな目配りをしています。昼休みには図書館にいて、児童の様子を観察し、一人で過ごしているような児童に対しては積極的に話しかけたりしています。また、1~4年生の算数の授業で学習ボランティアとして活動する保護者とともに、児童の様子を観察したり、気になる子への声掛けや担任に連絡したりするなどの活動を行っています。また、今年度からは、児童の読書の推進と、親子での読書活動の推進のために、第1、第3木曜日を「家族読書の日」として位置付けました。毎週木曜日の放課後6時30分まで図書館を開館し、児童を迎えに来た保護者や部活動を終えた児童に呼びかけ、親子読書をするための本の貸し出しや、心の相談として、保護者や児童との会話を積極的に行っています。

おわりに

この冊子に紹介した、読書活動の事例や子どもたちのエピソードは、各校から取材したもののすべてではなく、紙面の都合等で割愛したものもあります。しかし、この冊子で紹介したように、各校の事例やエピソードには、子どもたちの心の変容が見て取れるものがたくさんありました。「本を読んで人にやさしくできるようになった。」「弟や妹に読み聞かせをしている。」「親と一緒に本屋に行くようになった。」「親や先生に読んだ本を薦めるようになった。」「友達に本を紹介したり紹介されたりする。」というように、本を介して好ましい人間関係を築く子どもたちが増えている様子が感じられます。

一方、読書活動を活発に展開している学校でも、長年勤務して子どもを見続けていると、その変容に気づかないこともあります。他校から転勤してきた先生の方が、子どもの実態に気づきやすいということもあるようです。「前任校の子どもと比べて……」と語られる言葉の多くが、「落ち着きがある。」「話をよく聞く。」「きちんと話ができる。」「よく挨拶をする。」というものでした。これらは、人と人との関係の中で必要とされる能力です。このことからも、読書を通して子どもたちのコミュニケーション能力や表現力、豊かな心が育っている様子が見て取れます。

本には私たちが従来考えていた以上の力がありそうです。子どもは読書や読み聞かせによって本の世界を追体験し、生き方や考え方、人との接し方などを知らず知らずのうちに学び取っていきます。

最後に、あるボランティアの方から聞いた印象深い話を紹介します。

「現在行われている様々な読書活動の真の成果が現れるのは、10年後、20年後かも知れません。子どもが大人になっても本に親しみ、親となったときに今度は自分の子どもに読み聞かせをするようになっていたら本物です。」

親から愛情たっぷりに読み聞かせをしてもらった子どもは、自分が親となったときにも、きっと同じように愛情を注いで子どもに読み聞かせをするでしょう。そして、それが次の世代、その次の世代へと受け継がれていったならば、それは我が国の良き読書文化といえるものになることでしょう。



《参考・引用文献》

- 1 読書の発達心理学 秋田 喜代美 著 国土社
- 2 脳が元気になる読み聞かせ 子どもとほんとの楽しい出会い

関 可明 著(編集) 一光社

- 3 声の復権 教室に読み聞かせを! 有働 玲子 著 明治図書
- 4 心の教育は朝の読書から 林公著 メディアパル

《参考・引用Webページ》

1 文部科学省 子どもの読書活動の推進ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/suisin/index.htm

2 栃木県子どもの読書活動推進計画

http://www.pref.tochigi.jp/syougai-gakusyuu/dokusyo00.htm

3 読書と心の教育 読書が心を育てるために

http://www.commakagi.ne.jp/tosyokan/komento/k-150301.htm

- 4 絵本の広場 http://www.kids-f.jp/
- 5 読み聞かせをしてみよう よみっこ http://www.yomikko.gn.to/#mokuji

編集後記

ある学校の先生が次のようなことをおっしゃいました。

「読書感想文を書かせた際に、『優しい気持ちになった』『思いやりの気持ちが大切だ』といった内容の感想を書いた児童がいました。『心の教育』は学校の教育活動や家庭での教育などあらゆる教育活動を通して行うものですが、読書活動はその大きな柱となるのではないでしょうか。」

本調査では、読書を通して「人を育てる」ことへの教師やボランティアの熱い思いを 改めて感じることができました。その結果として、子どもたちは本が好きになり、読み 聞かせが好きになり、読み聞かせをするボランティアや親、先生方が好きになっていま す。読書活動に携わる人々の取り組む姿勢と地道な活動の継続が、子どもたちの豊かな 心をはぐくんでいるのだと思います。読書は子どもたちの成長の一端を担う活動である ことを知り得たことが本調査での一番の成果でした。

なお、当センターでは、本調査とともに「本を通した心のふれあい」体験談を広く県民から募集し、応募していただいた体験談を、「本との出会い 人とのふれあい - 『本を通した心のふれあい』体験談 - 」として冊子にまとめました。私たちが本調査で感じ取った読書のすばらしさや本を通した人とのかかわりについて、様々な人たちが体験談としてつづっています。どうぞこの事例集とともに御一読いただき、各学校が「豊かな心」をはぐくむ読書活動を展開する際の参考にしていただければ幸いです。

「豊かな心」をはぐくむ読書活動 - 実践事例に学ぶ -

平成16年11月

発行 栃木県総合教育センター

編集 栃木県総合教育センター研究調査部

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町 1 0 7 0 番地

TEL 028(665)7204 FAX 028(665)7303

E-mail: http://www.tochigi-c.ed.jp/



「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動

